

事務局記事

1. 火山噴火予知連絡会開催状況（平成18年2月～平成18年6月）

平成18年2月28日(火) ・幹事会
・第103回火山噴火予知連絡会(定例会)
(以上の議事録は、会報93号に掲載。)

平成18年6月12日(月) ・幹事会
・第104回火山噴火予知連絡会(定例会)

平成18年6月29日(木) ・伊豆部会 第3回伊豆大島の火山活動に関する勉強会
(以上の議事録を本号に掲載。)

2. 第104回火山噴火予知連絡会について

全国の火山活動についてのまとめ(126～131ページ)を公表した。藤井会長、石原副会長、横田委員(気象庁)が記者会見で説明した。

3. 火山活動に関する説明会について

事務局(気象庁地震火山部火山課)では、定例の火山噴火予知連絡会後に、地方自治体および関係機関の防災担当者を対象に連絡会での検討内容を説明する会を開催している。第104回連絡会の翌日の平成18年6月13日に開催し、10機関12名の出席があった。

4. 火山噴火予知連絡会伊豆部会 第3回伊豆大島の火山活動に関する勉強会について

1950～1951年の噴火の推移について、火山性地震・微動、地磁気、地質等の観測調査結果に基づき、以下について検討を行った。

- ・1950年と1951年に噴火(いずれも2ヶ月以上にわたる噴火活動)。
- ・有意な前兆現象は認められなかった(ただし、噴火2ヵ月ほど前から極微細な振動が記録された)。
- ・1950年の噴火時は有感地震が発生したが、1951年の噴火時の有感地震は少なかった。
- ・観測開始(1938年)から1944年頃まで地震活動が活発であったが、噴火前数年間は地震活動が低調であった。
- ・1950年の噴火2ヵ月前に三原山を中心とした地磁気伏角の顕著な変化があった(三原山西側地下での熱消磁で説明可能)。
- ・第Ⅰ期(1950年7月～9月):三原山でストロンボリ式噴火。三原山北斜面、西斜面に溶岩流出。
- ・第Ⅱ期(1951年2月～4月):ストロンボリ式噴火、溶岩流出。
- ・第Ⅲ期(1951年4月～6月):マグマの沈降後、爆発的な噴火が発生するパターンを繰り返す。大量のスコリア・火山灰を放出した。